



オランダ
国際シンポジウム「創造性と都市」とオランダの都市計画

佐々木雅幸

国際シンポジウム「創造性と都市」とオランダの都市計画

はじめに

今回の調査研究の最後の訪問地であるオランダのアムステルダムとロッテルダムは、ユトレヒトならびにデンハーグの4都市からなる円環状の連携都市を形成して、「ランドシュタット」とよばれ、その中央部にグリーンハートと名づけられる広大な緑地をもち、4都市が有機的に機能分担しつつ、オランダの経済社会をリードするネットワーク型広域連携都市地域のモデルとして近年都市計画関連の学会では高い評価を得ている。

同時に、都市文化政策においてもロッテルダムが2001年の「欧州文化都市」に指定を受けて積極的で前衛的な文化イベントを展開したことで文化政策担当者や研究者の間では注目を集めている。このように、オランダモデルはワークシェアリングや先進的福祉行政の分野のみならず、都市政策、文化政策の分野においてもわが国が学ぶ点の多いものとなっているのである。

目次

1. 国際シンポジウム「創造性と都市」	58
2. アムステルダム「文化環境公園」 西部都市ガス工場	60
3. ロッテルダムの「芸術街」 ヴィッテ・デ・ヴィストラット地区	61
4. まとめ	62

1. 国際シンポジウム「創造性と都市」

2003年9月25・26日の両日に亘ってアムステルダムの新しい創造空間である「西部都市ガス工場 (Westergasfabriek)」で開かれた国際会議「創造性と都市 (Creativity and the City)」は創造都市づくりの実践者とそれを理論的にリードする研究者の世界的な交流の「場」となり、同時に刺激的な討論の応酬される文字通りの「アリーナ (闘技場)」となった。

会議を通して綺羅星のごとく輝く数多くの参加者の中でとりわけ印象深かったのは第1日目のスーパー・スター、チャールズ・ランドリー、2日目はリチャード・フロリダであった。ランドリーは『創造都市 (Creative City)』(2000年)、フロリダは『創造階級の勃興 (The Rise of Creative Class)』(2002年)といういずれも21世紀を代表する新しい都市論の話題書を携えての登場であり、会場は2人のパフォーマンスに釘付けになった。

ランドリーによる『創造都市 都市イノベータのための道具箱』は都市問題に対する創造的解決のための「創造的環境 (creative milieu)」をいかにして作り上げ、いかにそれを運営していくのか、そしてそのプロセスをいかにして持続的にしていくのか、実践的に「創造都市をつくるための道具箱」を提供するコンセプト的な「創造都市政策論」である。

イギリスを中心に活躍する彼の『創造都市』論の背景は、欧州において日本よりいち早く製造業が衰退した結果、青年層の失業者が増えて、従来の福祉国家システムが財政危機に直面したことが挙げられる。産業空洞化と財政破綻の中で国家の財政的支援から自立して、どのように新しい都市の発展の方向を見いだすかという問題意識で彼は政策提言を続けている。その際、芸術文化が持つ「創造的なパワー」を生かして社会の潜在力を引き出そうとする都市の試みに注目しており、アメリカの都市学者ジェイン・ジェイコブズの影響を受けて「創造性」を空想や想像よりも実践的で、知識 (インテリジェンス) と革新 (イノベーション) の中間にあるものとして、つまり、「芸術文化と産業経済を繋ぐ媒介項」として最重要に位置づけていることが特徴的である。



チャールズ・ランドリー

彼は都市プランナーとしての自らの経験から「芸術文化のもつ創造性」に着目した理由として、第1に、脱工業化都市においてマルチメディアや映像・映画や音楽、劇場などの創造産業が製造業に代わるダイナミックな成長性や雇用面での効果を示す点を挙げ、第2に、芸術文化が都市住民に対して問題解決に向けた創造的アイデアを刺激するなど多面的にインパクトを与えることを挙げて、「都市の創造性にとって大切なのは、経済、文化、組織、金融のあらゆる分野における創造的問題解決とその連鎖反応が次々と起きて既存のシステムを変化させる流動性である。」とも語っている。

さらに、第3に、文化遺産と文化的伝統が人々に都市の歴史や記憶を呼び覚まし、グローバリゼーションの中にあっても都市のアイデンティティを確固たるものとし、未来への洞察力を高める素地を耕すとも言っている。創造とは単に新しい発明の連続であるのみならず、適切な「過去との対話」によって成し遂

げられるのであり、「伝統と創造」は相互に影響し合うプロセスである。それゆえ、第4に、地球環境との調和をはかる「維持可能な都市」を創造するために文化が果たす役割も期待されるのである。

具体的に講演の中で彼は、注目される創造都市としてポローニヤ、ブリュッセルとともに2000年に欧州文化都市に指定されたヘルシンキを取り上げた。「光」をテーマにヘルシンキに固有の自然環境や文化的伝統の上に立ち、新しいメディア・アーティストの集まる「創造環境」としてのケーブル・ファクトリー（旧ノキアの工場）などのプロジェクトをすすめるユニークな都市再生戦略である。彼は企画段階からコンサルタントとしてさまざまなアドバイスを贈ってきた。

さらに、「深い眠り」の中にあったオーストラリアのアデレードでは、長期にわたって州政府や都市自治体の政策顧問として携わる中で、組織の文化を創造的に転換することで創造都市への転換の弾みを作り出したという。

いずれにおいても、かれの長年の経験に裏打ちされた対話能力の高さが、創造都市への可能性を引き出し、いくつかの都市においては創造的な変化が開始されるクリティカル・マス（臨界質量）を醸成させていることに感銘を受けた。

一方のフロリダは、現代経済の新しい担い手としての「創造階級」の登場と勃興に注目し、そのエートスと仕事およびライフスタイル、そして彼らが選択するコミュニティの特徴を分析し、創造階級が好んで居住する都市や地域こそ、経済的パフォーマンスが優れていることをわかりやすい具体的な指標によって示した。彼の研究の出発点もまた地域経済の危機に視点が置かれている。すなわち、工場労働者の集まるピッツバーグに生まれた彼は、相次いで大型の工場が撤退し、失業者が滞留していく深刻な状況を前にして、産業の立地行動を分析し、成長著しいハイテク産業は創造的人材を求めて立地することを突きとめ、地域再生の鍵は工場の誘致ではなく、いかにして創造的な人材をその地域が誘引できるかに懸かっていると主張したのである。



リチャード・フロリダ



フロリダのレクチャーを熱心に聞き入る聴衆

そして、フロリダは政策的提言として創造的コミュニティを実現するためには、「創造性の社会的構造」とりわけ、社会的文化的地理的環境（milieu）こそが重要であり、近年、Rパットナムらが唱える社会関係資本（ソーシャル・キャピタル）よりも「創造資本」の重視の方が有効である

と主張している。

彼が「創造階級」と呼ぶ社会集団にはITやバイオなどの自然科学系のR&Dやイノベーションに関わる職業のみならず、映像・音楽・舞台芸術・メディアアートなど芸術系の職業集団をも含めているところが新しい。フロリダによれば、これら二つの社会集団の集積を示す指標である「ハイテク指標」と「ゲイ（gay）指標」には地域的に相関がみられ、サンフランシスコやオースチンなど近年注目される成長地域はいずれの指標も高くなっているという。

彼の「ゲイ指標」は欧州に伝統的なハイカルチャーを指向するエリート層ではなく、オープンマインドでアヴァンギャルドなボヘミアンと呼ばれる社会集団の創造性を強く印象付けるシンボルになっており、オペラに対するミュージカル、クラシック音楽に対するジャズやロックなどアメリカのカウンターカルチャーを持つ、欧州の既成社会に対する挑戦的態度が明瞭であり、それだけにインパクトの強いものであった。

ランドリーとフロリダという2人スーパー・スターを軸に、世界中の注目される都市や地域の創造的な再生事業が紹介され、2日間の国際会議は刺激的な議論を呼びおこした。そして当の会場自体も以下に述べるように、まさしく創造空間にふさわしいものであった。

2. アムステルダム「文化環境公園」 - 西部都市ガス工場

国際会議「創造性と都市」の会場となった「西部都市ガス工場(Westergasfabriek)」とは、そもそも、アムステルダム市が19世紀末に都市ガス工場として建設したものであり、13.5ヘクタールの敷地にガス会社の管理棟とガス製造工場、そしてガスを保存するガスタンクなど後に文化財としての指定を受けた20の建物が配置されてきたが、都市ガスが徐々に天然ガスに転換されていくのに従い、石炭によるガス製造工場が閉鎖されて、1992年には西部公園地区評議会に管理が委譲されたものであった。都市ガス製造に使用された土壌は汚染されているために土壌改善のための費用として当初は2億ギルダールの大金が必要との判断があり、大規模な修復と環境再生事業は見送られた。このため最初は臨時的な文化施設として小さなアートグループが使用しているのみであったが、次第に文化的な施設利用というコンセプトが明瞭になり、これら100年以上の歴史を持つ近代産業遺産を「文化と企業活動が融合する公園」とする社会実験の「場」とすることになった。

「西部都市ガス工場」跡地の利用に関しては、周辺の市民からも公園としての利用の希望が多く出され、それに基づいて、臨時のイベントビューローが設立されて、オペラからファッションショー、映画撮影からパーティ、展示会、サーカスなどさまざまなジャンルのイベントが展開されて、文化公園としての利用可能性が確認されていった。

第1のバリアーであった2億ギルダールと見込まれた土壌復元費用は、後に住宅・計画・環境省の法律が変わったこともあり、500万ギルダールに減少することによって障害がなくなり、文化環境公園への再生事業が本格的に開始されることになった。

まず、国際デザインコンペが開催されて、アメリカ人の景観建築家であるキャサリン・グスタフソンの



西部都市ガス工場



再生計画について説明するEvent Verhagen氏

提案が採用されることになった。彼女のデザインは「都市と自然の間の段階的移行」をコンセプトとするものでアムステルダム都心に近い公園の東側は歴史的な都市公園として残し、中央部の景観をスポーツや産業に利用し、西側を自然との調和を図るゾーンとし、中心軸がこれら全ての施設をつなぐ回廊となるというものがあった。



「西部都市ガス工場」の風景

2000年には地区協議会は13の施設を不動産開発業者のMABに譲渡し、この会社が建築ビューローの監督の下で建物を文化活動にふさわしいものにリノベートすることになり、公園と文化と企業活動の組み合わせを実現するためには週7日完全稼働が求められることになった。こうして、都市ガス工場という近代産業遺産は市民参加と優れたリーダーシップとで「環境と文化の創造の場」に転換することになった。

3. ロッテルダムの「芸術街」ー ヴィッテ・デ・ヴィストラット地区

ロッテルダムにおいて、「創造の場」となっているのはヴィッテ・デ・ヴィストラット地区で中央駅から程近く、ポイマンス美術館のある美術館公園と海事博物館があるローヴェ港に隣接したエリアであり、これらを繋ぐことによって都市の「文化軸」を形成している。

5年ほど前まで、この地区は麻薬と犯罪の街であり、衰退の一途をたどっていたが、地区を再生するための住民団体が組織されてから変化が始まった。早速、住民団体はこの地区のいくつかのギャラリーを運営していたロッテルダム芸術財団に協力を依頼して、「芸術街」に転換する計画を作成したのである。1980年代末にかけて新しい動きが始まったが、目に見える変化がおきたのは1990年であった。その年に設立された近隣開発会社がカタリストになって多数のギャラリー、ヴィッテ・デ・ヴィストラット芸術センター、そして芸術愛好家を誘引するトレンドリーなバーやレストランを再活性化することに成功したのであった。

多数のフェスティバルやイベントが企画され、多様なショップやカフェ、レストラン、文化施設やギャラリーが、創造的クラスターを形成するようになったのである。この「芸術街」の形成において特徴的なことは、文化事業局ではなく、公的部門においては経済開発局と都市開発・住宅局が中心となり、周辺住民とてつくる「ヴィッテ・デ・ヴィストラット相談グループ」を形成し推進してきたことである。



ヴィッテ・デ・ヴィストラット地区

このようにして形成された創造クラスターを構成するのは従業員10人以下のマイクロ企業であり、その特徴は互いの存在が立地において重要性を持っているこ

とであり、知識や情報の交流という関係性が重要な資産となっていることである。特に、この地区では文化の生産というよりは、文化の消費に基づく相互依存関係が独特の創造的雰囲気を作り出し、このことがさらに文化的なマイクロ企業をひきつけるという累積的效果を生んでいることが重要であろう。こうして、ヴィッテ・デ・ヴィストラット地区はロッテルダムを代表する「創造の場」となったのである。

4. まとめ

以上、国際会議「創造性と都市」、ならびにアムステルダムとロッテルダムの事例調査から明らかなのは、第1に、グローバリゼーションがもたらす都市・地域の衰退や危機からの脱出策として取り組まれる「創造都市戦略」、すなわち、「文化と創造性による都市再生事業」は、近代産業遺産を新しい「文化と環境創造の場」とし、治安の悪い場末の盛り場をアヴァンギャルドの芸術街として復活することにより、見事にその有効性を実証していることである。

第2に、そのさい、都市文化政策サイドはもとより、都市経済政策、都市開発政策、環境政策の分野との政策統合が重要な課題になっており、芸術文化のもつ創造性を個人のレベルから、組織のレベルにまで高め、さらに「都市の創造性」を十全に発揮させるような展望を持った総合政策になっていく必要がある。

第3に、このような新しい「創造の場」や「創造クラスター」は公共部門による取り組みのみでは実現しない。むしろ、民間の非営利活動や、住民参加型の環境団体などと芸術家のグループがパートナーシップに基づき柔軟でオープンマインドな協力体制が機能したときに成功するケースが多いということである。



参考資料：

「創造性と都市(Creativity and the City)」会議日程

会期：2003年9月25日～26日

会場：Westergasfabriek (アムステルダム市)

主催：Westergasfabriek、ハーバード・デザイン・スクール、オランダ自治体連合

September 25(Thursday)	September 26 (Friday)
<p>Keynotes (morning, 10.00 - 11.00): Job Cohen speech (Mayor Amsterdam) Niall Kirkwood (Harvard Design school) Alexandre Chemetoff (Landscape architect, Paris)</p>	<p>Keynotes (morning, 10.00 - 11.00): Hannah Belliot (Alderman Amsterdam on Culture) Richard Florida (Author The Rise of the Creative Class) Joan Busquets (Urban Designer Barcelona, Harvard)</p>
<p>Box 1 (morning, 11.15 - 12.45):</p> <ul style="list-style-type: none"> • Creative Industries with Simon Evans (Creative Clusters) • To B or not to B (first part, presentations, on Bilbao and Belfast, moderated by Beth Benson workshop organised by DSP Group) • Architectures of Creativity with Bert Mulder en John Thackara <p>Lecture: Einat Kalisch - From Madonna to Tel Aviv Charles Landry (Author Creative City) Presentations: Tacoma - Bill Pugh Glasgow - Colum Halferty</p>	<p>Box 1 (morning, 11.15 - 12.45):</p> <ul style="list-style-type: none"> • Urban Designers: the priests of our time? by Ariella Masboungi • IBA Emscherpark: the model for regeneration? • Post-Industrial cities: Creative cities? by De Stad BV • Child in the City by Jantje Beton • Brands and their Cities. <p>The 'BMW Welt' in Munich. by Mr. Gerd Burla, Interbrand Zintzmeyer & Lux</p> <p>Lecture: Paul Rutten (Erasmus University)</p>
<p>Box 2 (afternoon, 14.00 - 15.30):</p> <ul style="list-style-type: none"> • Public Art (first part, presentations) • To B or not to B (second part, discussion) • Trust or Bust • Creative city Masterclass with Charles Landry <p>Lecture: Aron Betsky - Director Netherlands Architecture Institute (NAI) Caroline Bos - UN Studio</p> <p>Presentations: Antwerp Park North with Hardwin de Wever, Paola Viagano and Bernardo Secchi</p>	<p>Box 2 (afternoon, 14.00 - 15.30):</p> <ul style="list-style-type: none"> • Public Space: the urban battlefield • Creative strategies on cultural programming • City Conception, second part of the branding workshop - by Bercy Florian • Act local, think global with Charles Landry <p>Presentations: Zaanstad, Hembrug area by Ad Herreijgers Bitterfeld, the Goitsche area, by Landrat Uwe Schultze</p>
<p>Box 3 (afternoon, 16.00 - 17.30):</p> <ul style="list-style-type: none"> • Public Art discussion • Make no small plans • We all love New York <p>Lecture: John Thackara Bernardo Secchi</p> <p>Presentations: Dordrecht, by Adriaan van der Linden Eindhoven, Strijp S, by Marianne Willemsen</p>	<p>Box 3 (afternoon, 16.00 - 17.30):</p> <ul style="list-style-type: none"> • Northsea canalzone: a Dutch IBA? • Creative Industries, a Demos workshop <p>Lecture: Child in the city, by Ramaswamy</p> <p>Presentations: Lagos, by Taiwo Aina</p> <ul style="list-style-type: none"> • The Face of the City: What was this conference about? by Cynthia Schneider